

「理科室に迷い込んだ野鳥(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

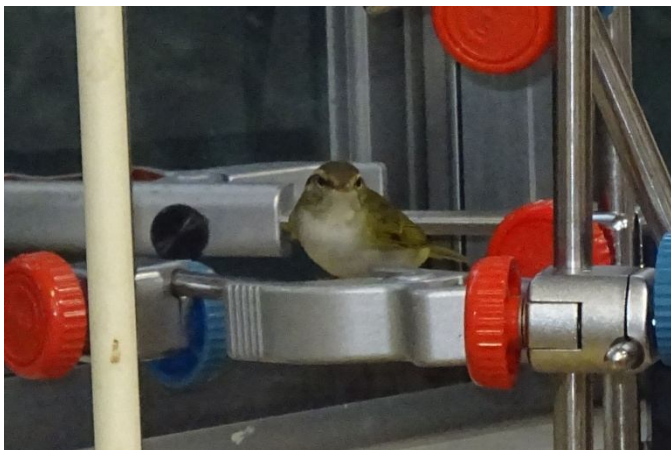
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus* は、スズメ目ムシクイ科に属する野鳥である。漢字では「仙台虫喰」だ。「エゾ(蝦夷)」「リュウキュウ(琉球)」「オガワサラ(小笠原)」などの地名を冠する野鳥は多いが、仙台という都市名を冠したものは珍しい。この野鳥と仙台とは直接関連はなく、鳴き声(聞きなし)に関連しているらしい。



窓から逃げようとしているのか、窓際の実験道具(ミニベア)に止まっている。窓を開けてやろうとすると逃げて、またここに止まる。せっかくなので、窓を開ける前に近寄って撮影した。



何度か繰り返すうちに、警戒はしているが、私がそっと近寄っても、逃げなくなった。ミニベアのアームが木の枝の太さに近く、「止まり心地」が良いのだろう。息を整えるように、この位置に数分間休んだままになっていた。



ここまで野鳥に近づけることは珍しい。カメラと小鳥の距離は30センチほどしかない。フラッシュをたいても平気な顔(だと思う)をしている。目の上の白い筋模様の特徴がよくわかる。



近づいてみてわかったのだが、右目(写真では左側)を怪我しているようだ。まぶたが半分しか開いていない。カラスか何かに襲われたのかも知れない。これで方向感覚を失って、建物に迷い込んだ可能性もある。



この「珍客」は、30分ほど理科室を「見学」したあと、イチョウ並木に逃げていった。センダイムシクイは「夏鳥」なので、冬が来る前に南の島に渡る。ちゃんと帰れたか心配になった。